

## 【湯川村】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「学習指導要領」及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の内容並びにこれらに引き続く政府の議論等では、ICTの活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、これまでも日本型学校教育において重視されてきた「協働的な学び」を一体的に充実し、子どもたちの資質・能力を育成することが求められている。

本村においては、保・幼・小・中の15年間をつなぐ「ゆがわっ子育てプラン」を基軸とした特色ある湯川村の教育行政を推進するとともに、子どもたちが持続可能な社会の創り手として成長できるよう、1人1台端末を効果的に活用し、個々の理解度や学習ペースに合わせることで、より一人一人の児童生徒の実態に応じた学習計画に基づく学びを目指す。

#### 2. GIGA第1期の総括

令和2年度に「GIGAスクール構想」に対応した児童生徒及び教職員分として306台の1人1台端末及び全学校における通信ネットワーク等を整備した。あわせて、すべての普通教室に対して、電子黒板を整備した。

学校現場における教科や学習場面に応じた、情報の収集・理解・整理・発信・共有及び個別の学びのツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図るとともに、家庭への端末の持ち帰りを実施し、長期休業中の課題やデジタルドリル等を用いた家庭学習など、様々な場面で活用することで、児童生徒の学習意欲の向上及び学習環境の整備に努めた。

各学校、教職員において、1人1台端末の積極的な活用に努めているが、教職員間において、ICT活用指導力の格差が見受けられるため、研修会の開催、授業実践例の提示等により、教職員のICT活用指導力の向上を図る。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

令和2年度に整備した端末は、令和7年度で導入から5年目となる。

「バッテリーの消耗が激しい」、「タッチペンの操作ができない」等の不具合も増えており、授業での活用に支障が出かねないため、令和7年度に端末の更新及び予備機の整備を行う。

1人1台端末環境を引き続き維持し、児童生徒の学習環境の構築に努め、下記の事項に取り組んでいく。

### (1) 1人1台端末の積極的活用

福島県版 ICT 活用ハンドブックの活用や、研修・実践事例の充実を通じて、教職員の ICT 活用指導力の向上を図るとともに、整備された ICT 環境を有効に活用し、各学校で ICT を活用した教育の推進を支援するために、ICT 活用指導力が向上するよう研修の機会の確保に努める。また、教職員間及び学校間での ICT の活用に関わる格差を減らすために、学校教育指導委員会において研修会を行ったり実践事例や教材の共有をしたりするなど支援体制の充実を図っていく。

### (2) 個別最適・協働的な学びの充実

福島県版 ICT 活用ハンドブックの活用や、研修・実践事例の充実を通じて、教職員の ICT 活用指導力の向上を図るとともに、児童生徒が学習支援ツール等を用いて、他者参照・共同編集をしながら自分の考えをまとめたり、自己調整を図りながら自らの学びを進めたりすることができるようにしていく。

### (3) 学びの保障

「NEXT GIGA」では、日常の授業で端末をより効果的に活用するとともに、ICT を活用した不登校支援等を行う。

また、特別支援など様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用し、学びを止めない学習環境を整備する